

=====
ふくしま

2012. 7. 25

復興支援フォーラムニュース No.18

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先 今野順夫(tkonno67@gmail.com) 中井勝己(024-548-8313)>

=====
震災体験から考える自治制度の課題 ー自治体連携から「仮の町」までー
今井 照 (福島大学)

(別紙・参照 FK-News18-2 & FK-News18-3 & FK-News18-4)

第15回ふくしま復興支援フォーラム（7月12日）のご意見等

（『放射能からきれいな小国を取り戻す会』の活動と今後の課題）＜佐藤惣洋氏＞

- ★ 国や県が頼りにならないもどかしさに憤りを感じ、住民自ら立ち上がるたくましさに感銘を受けます。見習うべきことが多い。（T.H）
- ★ 小国は今、福島県の問題の縮図のような地域です。多くの問題にも希望を持って取り組んでいくことが、自分を支えることになると思います、活動しています。（M.K）
- ★ 小国の問題を知っていただき、いろいろ支援の案を考えていただいているのを、大変心強く思いました。今後とも宜しく願いいたします。（M.K）
- ★ 地域住民が協力して出来ることを、国や県、市等行政がしなければならないことの線引きが、出来ていないことが住民の負担を増大させていると感じました。話には聞いておりましたが、隣人同士のいがみ合いが起きていることをどうすれば解決できるのかと思います。（K.Y）
- ★ これだけ素晴らしい活動を続けているところでさえも、いたましいいがみ合いがここまで進み、内攻しているのかと暗然たる思いでした。へこたれず、頑張ってほしいものです。真にせまる大変有益で切実な報告に教えられました。（S.I）
- ★ 放射線の深刻な問題に加え、地域のコミュニティが崩壊しつつある状況をうかがって、本当に現状の厳しさを感じています。最後の福大の先生方の話も、大変勉強になりました。ありがとうございました。（K.Y）
- ★ これからの小国地区はもちろん、市町村ごとの驚くほどの対応の違いとその背景について、現地調査、研究を進めたいと思っています。（H.S）
- ★ 米の出荷制限に係る行政の対応に関しては、想定範囲内ではあるものの、やはり失望しました。一方で、ボランティアによる100mメッシュによる空間線量調査が行われたことについては、その努力と熱意に感銘しました。（K.S）
- ★ 話が具体的で、迫力大である。空間放射線の高低と、作物が含有する放射性物質の量が対応していない事は一つの発見でした。であるからこそ、実証実験のために全面作付が必要であるが、作付制限が3月15日に示されたこと。誠に無念ですね。私も本当にそう思います。県・国の考えを、変えさせなくては・・・。（H.I）
- ★ 浪江町の復興計画のお手伝いをしています。町民の皆さんは、どこまで線量を下げれば安心（安全）なのか、本当に除染の効果はあるのか、放射性物質が移動（川の流れなど）して、予測できない処で被災が出るのではないかと等々深刻な不安を抱えています。（K.K）
- ★ 県がもっとイニシアティブをとって、除染の計画を打ち出すべきである。国と市町村の間に入って、ウロウロしている感じである。高線量地域と低線量地域との実態を前提に、いかに福島県全体を復興させるのかという観点から、長期的スパンで考えるべきではないかと思います。低線量地域での徹底した除染を通じて、子どもを含む生活空間を確保し、そこでの住民生活を回復させながら、高線量地域の除染に迫っていくこともあるのではないかと。要は、県が主体性を持って、復興計画・除染計画を確立していく必要があると感じています。（T.K）

~~~~~

### 【第17回 ふくしま復興支援フォーラム】

日時 8月1日（水） 18時30分～20時30分（予定）  
会場 福島市 市民活動サポートセンター 会議室A  
報告者 大川貴子 氏（福島県立医大看護学部）  
テーマ 「福島県における精神科医療・保健・福祉の現状と課題」